

研究・調査報告書

報告書番号	担当
320	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol as a risk factor for type 2 diabetes: A systematic review and meta-analysis 2型糖尿病のリスク因子としてのアルコール	
執筆者	
Baliunas DO, Taylor BJ, Irving H, Roerecke M, Patra J, Mohapatra S, Rehm J	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Diabetes Care. 2009 Nov;32(11):2123-32	
キーワード	
飲酒、2型糖尿病、量反応関係、縦断研究、メタアナリシス	
要旨	
目的： 2型糖尿病と飲酒量の量反応関係を明らかにする。	
方法： 系統的にコンピューターと人力を駆使して、飲酒量が定量的であり、縦断研究に関連する文献を同定し、調査を行った。糖尿病に起因する効果(sick quitter effect)を調整した。量反応関係を調べるため、性・エンドポイントごとに、終身非飲酒者であったものを対照として、分数多項式(fractional polynomials)を用いてメタ回帰分析を行った。	
結果： 我々の基準を満たす20のコホート研究を同定し、解析した。男女ともにU字型の関係がみられた。終身非飲酒者であったものに比べて、2型糖尿病の男性群では、相対危険(RR)は22g/日の飲酒でもっとも保護的(RR 0.87 [95%CI 0.76-1.00])であり、60g/日以上で有害であった(RR 1.01 [95%CI 0.71-1.44])。女性では、24g/日の飲酒でもっとも保護的(RR 0.60 [95%CI 0.52-0.69])であり、約50g/日で有害であった(RR 1.02 [95%CI 0.83-1.26])。	
結論： 男女ともに適度な飲酒は2型糖尿病に保護的に作用するという知見をより確実なものとした。	